

平成30年5月24日 教育委員会報告事項についての質疑応答（要旨）

（報 告）

ア 平成30年度浜松市奨学生の選考結果について

※教育総務課就学支援担当課長から資料に基づき説明。

（石田委員） 高校生の奨学金制度の周知はどのように行っているか。

（就学支援担当課長） 該当者に直接説明を行っている。

（渥美委員） 選考における問題点は何かあるか。

（就学支援担当課長） 申請者が減っている状況で、連帯保証人を立てることが難しいのではないかというご指摘があった。また、就職が困難であると返還が難しく、自己破産の恐れもあるため、給付型や返還の猶予について検討する必要がある。

（渥美委員） 機関保証など、検討してほしい。

（安田委員） 浜松市で就職した場合の優遇措置など、条件付きの給付を検討してほしい。

イ 平成30年度浜松市放課後児童会登録児童数及び待機児童数について

※教育総務課学校・地域連携担当課長から資料に基づき説明。

（安田委員） 待機児童数が大幅には減少していない原因は。

（学校・地域連携担当課長） 協働センターを借りて新設するなど、定員数を増やしているところであるが、学校の余裕教室が減っていることもあり、開設場所の確保に苦慮している。また、支援員の確保も難しい点である。

ウ 平成29年度における学校施設等の被害状況について

※教育施設課長から資料に基づき説明。

（石田委員） 幼稚園の被害5件について、原因の特定はできているか。

（幼児教育指導担当課長） 1件は特定できているが、4件は特定できていない。

（渥美委員） 被害の原因はカメラで特定できなかったのか。

（幼児教育・保育課長） 被害箇所がカメラで捉えられない場所であったり、常に人が出

入りしないような場所で、被害時期が分からないようなケースであったりするため、原因が特定できていない。

(渥美委員) 小学校や中学校の防犯カメラの設置状況は。

(教育施設課長) 小学校11校、中学校1校に設置している。また、教育施設課に2セット用意し、必要なところに貸し出ししている。

(こども家庭部長) 幼稚園はすべての園に設置しているが、不審者の侵入対策として、通路や経路、出入口等を中心に設置しており、建物全体を網羅しているわけではない。また、今回の被害箇所には、建物本体ではない部分が含まれており、カメラで捉えられていない。

(渥美委員) 設置個所を増やす意向はあるか。

(教育施設課長) 抑止効果が期待できるため、設置個所を増やしていければと考えている。

(渥美委員) カメラも低価格化しているため、増設を検討してほしい。

(鈴木委員) 警備はどの程度まで対応しているのか。

(教育施設課長) 校舎棟には機械警備が入っており、侵入者があれば対応できるが、網羅できない箇所が被害にあっているケースがある。

(鈴木委員) 警備会社と連携し、被害が多い地域などでは対応範囲を工夫できると良い。加害者が特定できた場合、修繕費用はどのようになるのか。

(教育施設課長) 加害者に請求する。加害者が未成年の場合は、その保護者に請求する。

(渥美委員) 請求手続きは、実務的にはどのように行われるのか。

(教育施設課長) 保険会社同士が行うケースがほとんどである。

エ 平成29年度教職員の体罰・不適切な言動に関する調査結果について

※教職員課長から資料に基づき説明。

(渥美委員) 前年比較だけでなく、長期での推移が分かるような調査としてほしい。

(教職員課長) 体罰については、平成26年度46件、平成27年度46件、平成28

年度37件、平成29年30件と、年々減少している。不適切言動については、平成26年度16件、平成27年度30件、平成28年度43件、平成29年36件と、年々増加していたが、今年度減少に転じた。来年度以降は、ご指摘の点を踏まえて報告したい。

(鈴木委員) 体罰と不適切言動について、毎年同じ教員が繰り返し行っているのか。

(教職員課長) 昨年度も今年度も該当があった者は、体罰で1人、不適切言動で2人いた。一昨年度から繰り返し行っている者はいない。

(鈴木委員) 体罰と不適切言動はどちらも50代が多いが、その理由は。

(教職員課長) 長年培ってきた指導と現在の指導とのズレから、子供の理解を得られないような、高圧的な指導と捉えられてしまっているケースが多いのではないかと考える。

(鈴木委員) 研修等でそのようなことを指摘しているのか。

(教職員課長) 学校訪問の際に、教職員課から直接、教職員に対して伝えている。

(安田委員) 体罰や不適切言動を何年も続けてしまっている者については、程度にもよるが、教育委員会としての処分も検討していく必要がある。

(石田委員) 不適切言動について、小学校の件数が増えているが、教員の人間性の問題なのか、問題行動を起こす子供たちの低年齢化などが要因なのか。

(教職員課長) 教員側の指示に従わないために、指導する手段が不適切になってしまった、ということが多い。

(渥美委員) 指導を行うという目的は間違っていないと思うので、手段の相当性を心得て指導してもらいたい。

オ 平成31年度浜松市立小・中学校教員採用選考試験志願状況について

※教職員課長から資料に基づき説明。

(石田委員) 小学校教員志望者の減少は、全国的な傾向か。何か原因はあるのか。

(教職員課長) 全国的な傾向である。小学校教員の減少については、教育系学部の定員の減少が影響していると考えられる。中学校教員は教育系学部以外でも免許を取得できる。

(渥美委員) 教員を目指す人を増やさなければ抜本的な解決策とならない。

(安田委員) 発達支援推進の採用枠の設定は非常に良い。必要な免許など、受験資格はどのようなものか。

(教職員課長) 通常の教員免許に加えて、特別支援学校免許又は経験者を対象としている。

(安田委員) 中学校志願者のうち、複数免許を所持している者は何人いるか。

(教職員課長) 17人いる。なお、選考にあたって、複数免許所持者は加点される。

(安田委員) 私立でも教員採用に力を入れていると聞いており、浜松市で内定を出しても辞退される可能性がある。今後、辞退者が出る場合は理由を聞いておくとよい。

(鈴木委員) 中学校は教科ごとに偏りがあると聞いているが、それぞれの教科における退職者数を示すことはできるのか。

(教職員課長) 早期退職や再任用する場合があるため、退職者数を示すことはできない。

(鈴木委員) 小中併願者の数が減少しているのは、複数免許を所持している者が減ったということか。

(教職員課長) 複数免許を所有していても、併願していない場合があるため、一概には言えない。

(石田委員) 働き方改革を行っていることを人材集めのチャンスと捉え、勤務形態を柔軟にするなど、制度設計を工夫してほしい。浜松ならではの取り組みができると良い。

(教職員課長) これまで育休代替が講師だったところを正規の教員で対応することで、周囲の負担を軽減するような仕組みなどを検討している。また、インターンや教育実習の際に、浜松市の教育や、教員の仕事の魅力などについて伝えていきたい。

カ 平成29年度問題行動、不登校及びいじめの実態について

※指導課長から資料に基づき説明。

(渥美委員) いじめが発覚した場合、どのような指導をしているのか。

(指導課長) 各学校が定めるいじめ対応基本方針に基づいて対応する。対応の仕方は個別の状況によるが、大切なのは学校が共感的に受け止め、どこまで対応できるかという

ことを示しながら、被害にあった子供に寄り添うことが大事であると考えている。

(渥美委員) 教師の言葉の掛け方が重要である。

(安田委員) 家出の増加はどのような要因があるか。

(指導課長) いわゆる家出癖のようなものではなく、衝動的に家を飛び出した、ということが多い印象である。実際の件数に上がるかどうかは、親の報告によるという面もある。

キ 平成29年度園児・児童・生徒の交通事故状況と不審者情報について

※健康安全課長から資料に基づき説明。

(石田委員) 不審者58件について、特定はできているか。

(健康安全課長) 特定できているかどうかまでは追っていないが、不審者情報があれば必ず警察に連絡している。

(鈴木委員) 自転車事故について、子供が加害者となっているケースはあるのか。

(健康安全課長) 児童生徒が加害者となっている報告はない。

ク 平成29年度通学路整備要望調査について

※健康安全課長から資料に基づき説明。

(渥美委員) 対応できていない箇所は、どのように検討しているのか。

(健康安全課長) 関係機関で協議している。年度内で結論を得られなかったものについて、未対応となっている。

(渥美委員) 対応されなかった要望内容は、翌年度も引き続き検討されるのか。

(健康安全課長) 要望内容については、5年間は継続して対応する。対応困難であれば、終結したものとして取り扱うが、改めて要望が出てくれば検討する。

(渥美委員) 優先順位付けはどのようにされているのか。

(健康安全課長) 予算も含めて、対応可能なものが優先される。

(渥美委員) 改善されていない事項はどのように対応するのか。

(健康安全課長) 地権者の問題や道路の幅員の問題で即座に対応することが難しい場合が多いが、関係機関と検討する中で、代替案を提示するなど、真摯に対応している。

(その他)

○学校管理下における転落事故防止について

※健康安全課長から説明。